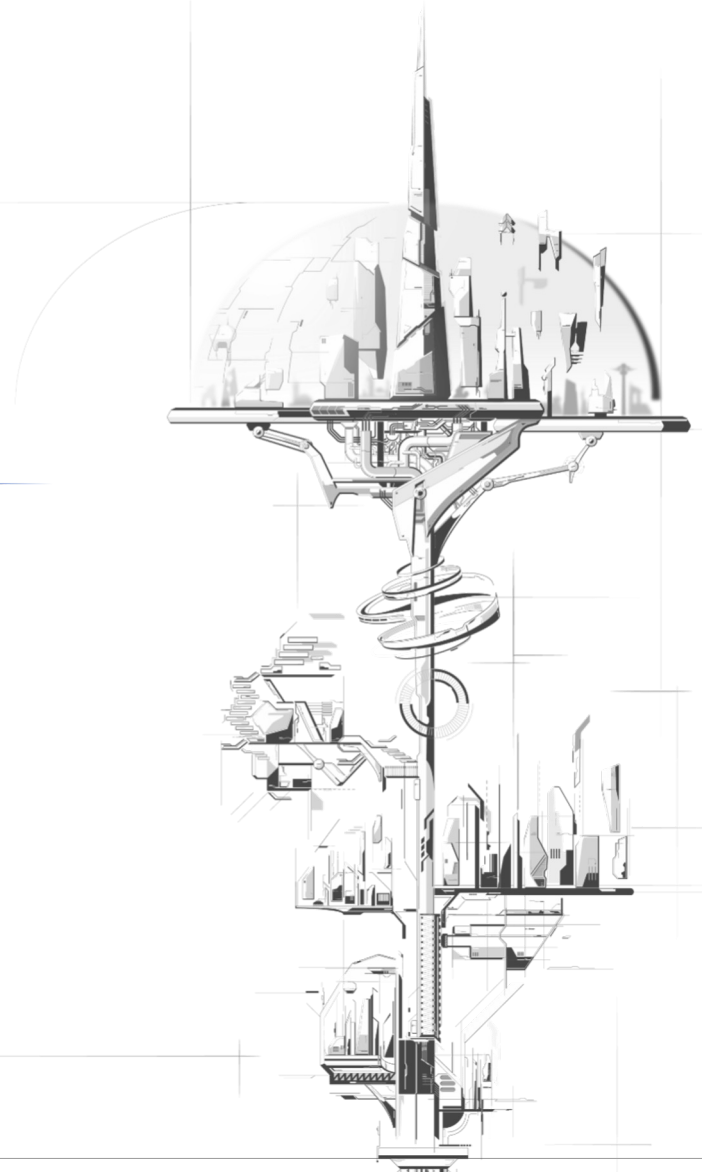


クラウド活用支援サービス

GIMLE





About Us

会社概要

フェンリルはアプリ・ウェブ開発と UI / UX デザインのプロ集団です

フェンリル流 UI デザイン

私たちが追求しているのは「手になじむ UI デザイン」です。アプリ、ウェブを問わず、使い続けてもらえるサービス、機能的で飽きがないサービスの UI デザインは、ほんのりとした遊び心や手になじむという感覚をユーザーにもたらしめます。奇抜さやインパクトを求める志向とは一線を画しています。

確立されたプロセスに基づく UX デザイン

フェンリルで UX デザインを手がけているのは HCD（人間中心設計）の専門家です。確立された手法に基づき、全プロセスを通じて高度なデザイン力と技術力を投入。ユーザーに長く使い続けてもらえるアプリやウェブを開発します。



About Us

会社概要

社名	フェンリル株式会社 Fenrir Inc.	
設立	2005年 6月 13日	
所在地	大阪本社	〒530-0011 大阪府大阪市北区大深町 3-1 グランフロント大阪タワー B 14F
	東京本社	〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-27-3 A-PLACE五反田 4F
	島根支社	〒690-0826 島根県松江市学園南 2-10-14 タイムプラザビル 3F
	名古屋支社	〒461-0001 愛知県名古屋市東区泉 1-21-27 泉ファーストスクエア 4F
	京都支社	〒600-8008 京都府京都市下京区长刀鉾町 22 三光ビル 9F
経営陣	最高経営責任者：牧野 兼史 社長/最高ブランド責任者：柏木 泰幸	
資本金	1 億円	
事業内容	デザインと技術にこだわったプロダクトとサービスの制作	
従業員数	565 名 (グループ全体、2022年6月 現在)	
子会社	株式会社 Brushup / 成都市飛狼科技有限公司 / 大連飛狼科技有限公司 / 飛狼数碼 (上海) 有限公司 / 株式会社DAQ / ベルグマル株式会社	



About Us

会社概要

枠にとらわれないクラウド活用の在り方を追求しています



About Us

会社概要

理想を現実にできるエンジニアが多数在籍

GIMLEにはAzure、AWS、GCPなどさまざまな資格をもったエンジニアが多数在籍。

理想とするクラウド環境を現実のものにできる技術と経験を持ったメンバーが最適解をご提案いたします。

Microsoft Partner
Silver Application Integration
Silver Application Development
Silver Cloud Platform



下記Microsoft認定資格保有者が在籍しています。

- Azure Fundamentals
- Azure Administrator Associate
- Azure Developer Associate
- Azure Solutions Architect Expert
- DevOps Engineer Expert

(2023年4月現在)

aws PARTNER NETWORK

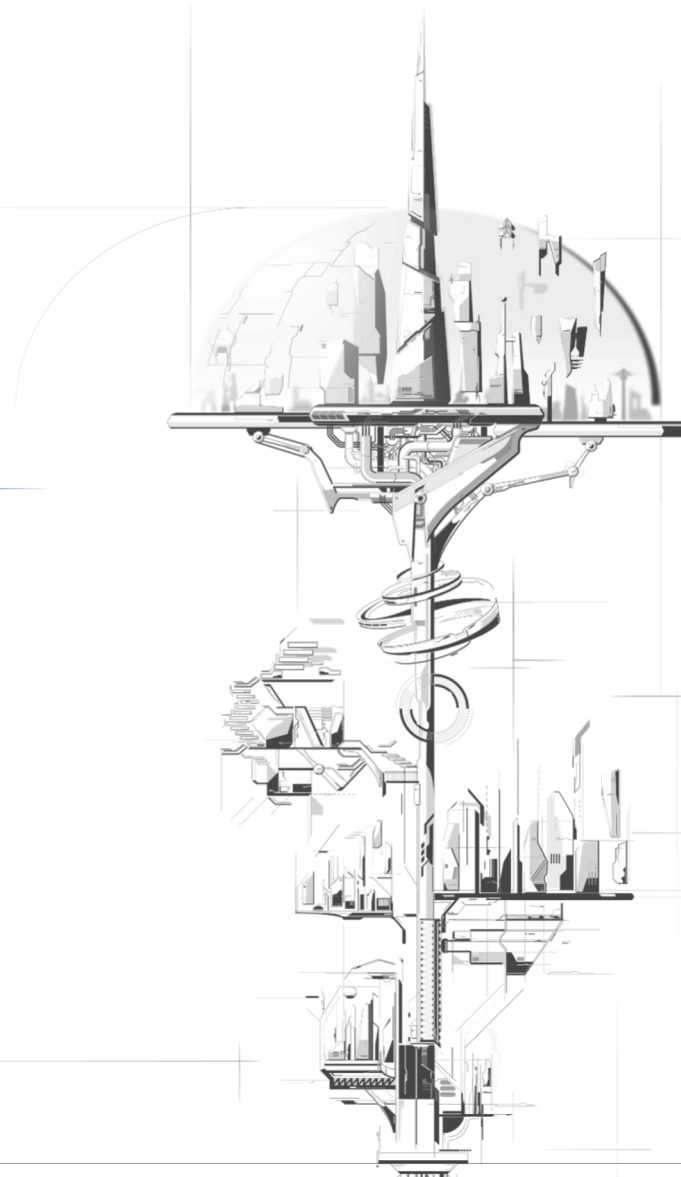
2022 APN AWS Top Engineer

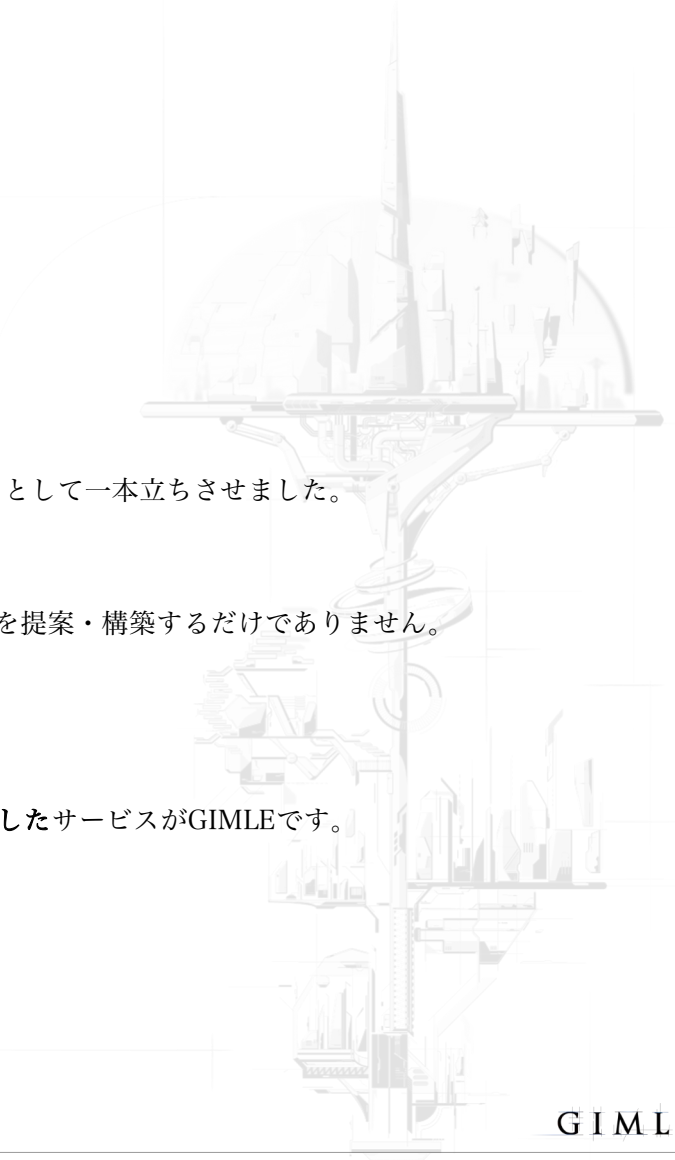


GIMLE

GIMLE

GIMLEについて





2020年9月に提供を開始。

もともとフェンリルのアプリ開発事業の一環として取り組んでいた業務を、サービスとして一本立ちさせました。

GIMLEは、クラウドを活用したアプリケーションを開発・運用する際の最適なインフラ環境を提案・構築するだけではありません。

導入後の活用支援によって事業の後押しをすることで、
開発者からエンドユーザーまで関わる全ての人々に**最高のUXを届けることを目的としたサービス**がGIMLEです。

GIMLE

PREMISE

HCDについて

フェンリルのUXデザインでは**HCD**に基づいた手法を導入



アプリケーション開発において、プロジェクトの状況や課題に応じて専門的な知識と経験をもとに最適なHCDプロセスを導入し、UX デザインのノウハウを余す所なく提供しています。



クラウド活用においても同様に
HCDプロセスを導入しています



PREMISE

HCDについて

HCD (Human Centered Design) とは、インタラクティブシステムを使いやすくするためにユーザの立場や視点に立って設計を行うことを指します。

HCDの原則

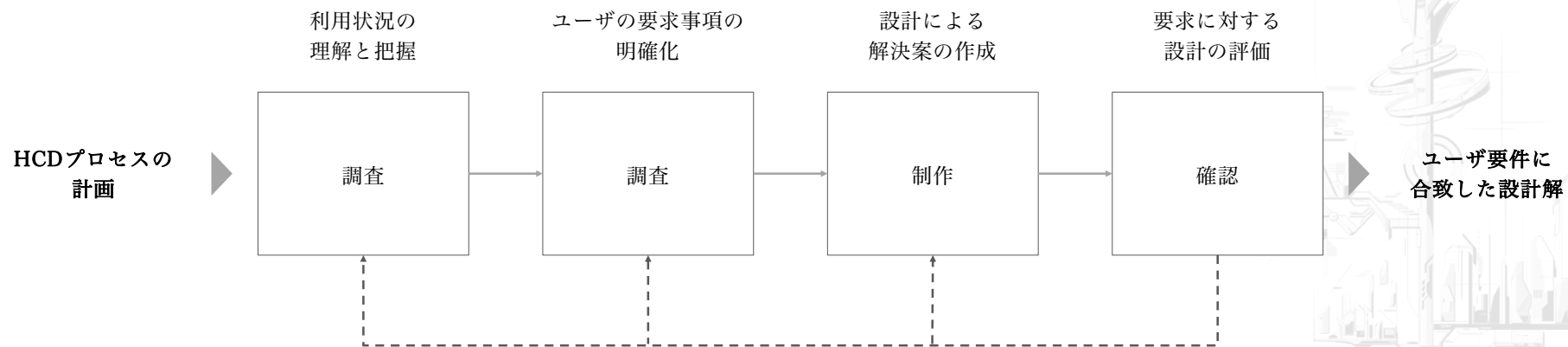
- ・ユーザが設計に積極的に関わること
- ・ユーザ、ユーザの仕事・要求を明確に理解すること
- ・ユーザとモノの機能配分を適切にすること
- ・ユーザからのフィードバックを受けながら、繰り返し設計を行うこと
- ・多様な職種に基づいた設計を行うこと

【参考】ISO 13407: Human centred design processes for interactive systems



PREMISE

HCDについて



SERVICES

主幹サービス

デジタル戦略アセスメント

ビジョン達成、価値創出のための
クラウド利用に向けたデジタル分析

クラウドアーキテクチャデザイン

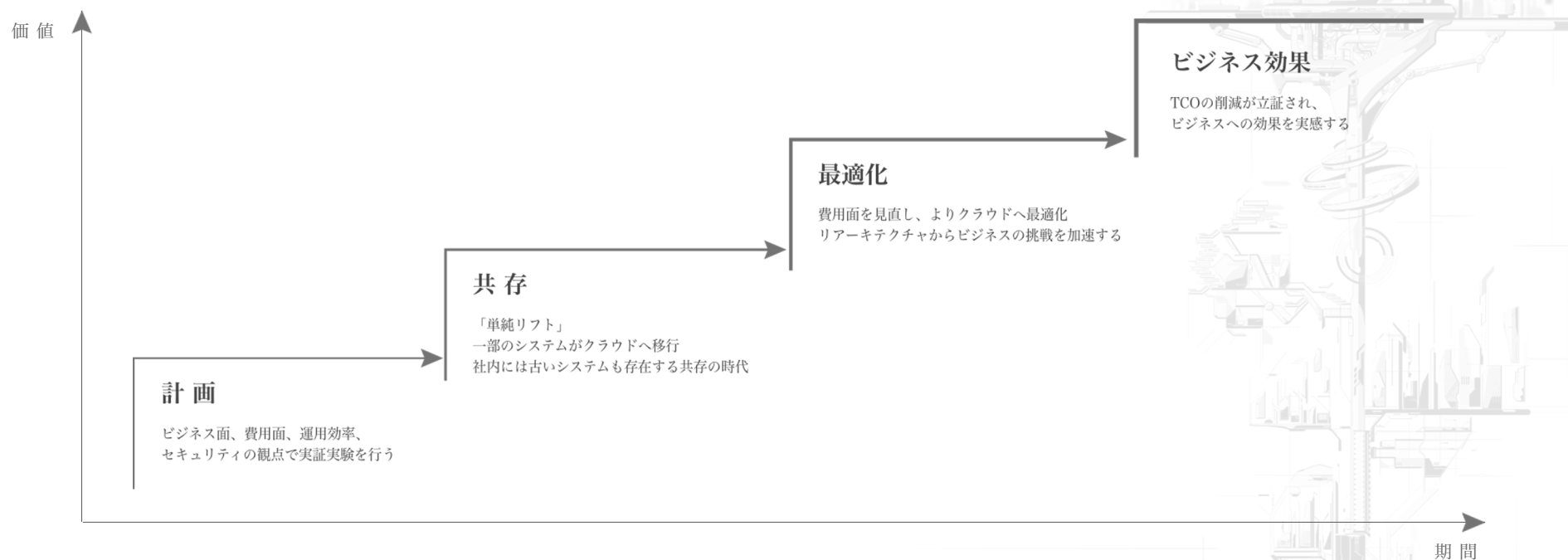
近い将来のアーキテクチャ、より挑戦的な未来の
アーキテクチャをビジュアルで表現

GIMLE

SERVICES

デジタル戦略アセスメント

クラウド導入における4つの階段



SERVICES

デジタル戦略アセスメント

現状を調査、クラウド活用のグランドデザインをご提案

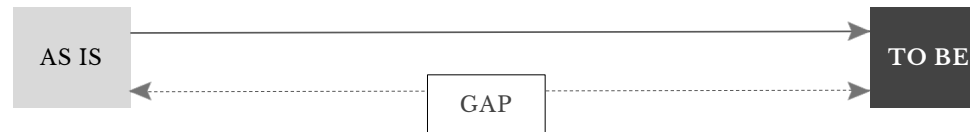
現行システムをそのままクラウドに移行し、恩恵を受けられるとは限りません。

コストが増加したり、パフォーマンスや可用性が下がるケースもあります。

現状を調査し、クラウドの選定および適材適所のクラウドサービスの活用をご提案します。

現状調査・可視化

- ・コスト把握
- ・課題把握
- ・環境把握（システム構成等）
- ・利用用途把握



理想像到達に向けたご提案

- ・現状分析結果のご報告 / 理想像のご提案
- ・理想像到達までのプロセスのご提案
- ・弊社で最適化される際は提案書送付
 - ・お見積り提示
 - ・スケジュール案提示
 - ・体制図提示

理想像の策定

- ・高パフォーマンス、レジリエンス、セキュアな構成
- ・用途に合うクラウド選定、サービス選定
- ・システム、サービス統廃合後の姿
- ・ランニングコスト試算
- ・新たなリスク（業務変更点など）の可視化

GIMLE

02 | Business

SERVICES

デジタル戦略アセスメント

進め方

3DAYS

各課題に対して、任意の3日間を利用し、ワークショップを実施
→アクションプランを決定し、次のアクションへ

3WEEKS

3DAYSで時間が足りなかった場合、課題の特性上PoC等を必要とする場合、3WEEKSのサービスを利用し、方向性を見出す

課題解決へ向けたアクション

3DAYSまたは3WEEKSにて洗い出し、決定した事を実施

SERVICES

デジタル戦略アセスメント

3DAYS

問題、課題解決は現状を認識し、メンバーと共有することから始まります。
3DAYSでは、対話型ワークショップを通じて現状を分析し、どこに問題があるかを深掘りしていきます。
潜在している問題の発見から解決への導線的设计をし、最終的には理想像となるTo-Beを描きます。

具体的な方法としては下記の通りです。

1. As-Isを徹底的に分析しつくす
2. 問題の在り処を探る、特定する
3. 問題を取り除く方法、解決する方法、ToBeを考える

GIMLE

SERVICES

デジタル戦略アセスメント

3DAYS

1

As-Isを分析

- 現状システムのワークロード・システム構成のヒアリングし、お客様にどういったシステムか（用途、構成）を説明していただきます。
- お客様が普段抱えている問題の洗い出し、リストアップします。

2

問題の在り処を探る、特定する

- リストアップされた問題をお客様と一緒に分析します。
 - 問題のグループ分け
 - 抽象化
 - 本質、根本を探る

3

問題除去・解決の方法、ToBeを考える

- システム構成のToBe
 - たどり着くためのStep・ロードマップの策定
- 組織や人のToBe
 - マインドセットの醸成
 - 学習内容・計画の策定
 - 人材計画の策定とアクションプラン作成

SERVICES

デジタル戦略アセスメント

3DAYS

(クライアント様の)
主なメリット

- 業務時間を使って様々な議論を行うことができる。
- 外部の視点が注入されることで気づき生まれる。
- スペシャリストに質問できる。アドバイスが貰える。
- セカンドオピニオン的な使い方ができる。
 - 外部コンサルに依頼して戦略を作ってもらったけど内容に不安だと言う場合に。
- 戦略や解決策まで見つかる可能性がある。
 - その場合、予算の確保から具体的アクションプランの作成・実行が可能に。

GIMLE

SERVICES

デジタル戦略アセスメント

クラウド活用の疑問

GIMLE

1. オペレーションのコード化
2. 自動化されたセキュリティメカニズム
3. 復旧プロセスの自動化
4. サーバレスアーキテクチャの適用
5. 不要なリソースの停止

GIMLE

3DAYS

テーマA：課題を洗い出し、理想を見つける。そしてアーキテクチャへ落とし込む。

目標：これからクラウドへの展開をスタートするという決意が生まれること

ゴール：アーキテクチャ案の完成

DAY1	AM	<ul style="list-style-type: none"> ・初期ファシリテーション（自己紹介、目的・ゴール・過ごし方などの説明） ・使用ツールの説明、トレーニング（Cacooなど） ・状況ヒアリング（貴社からの情報Input）
	PM	<ul style="list-style-type: none"> ・（As-Is）課題の洗い出し→ディスカッション ・DAY1まとめ（問題認識、状況の認識共有）

（DAY2までの宿題） どうしたら幸せになれるのかを考える

3-5 day

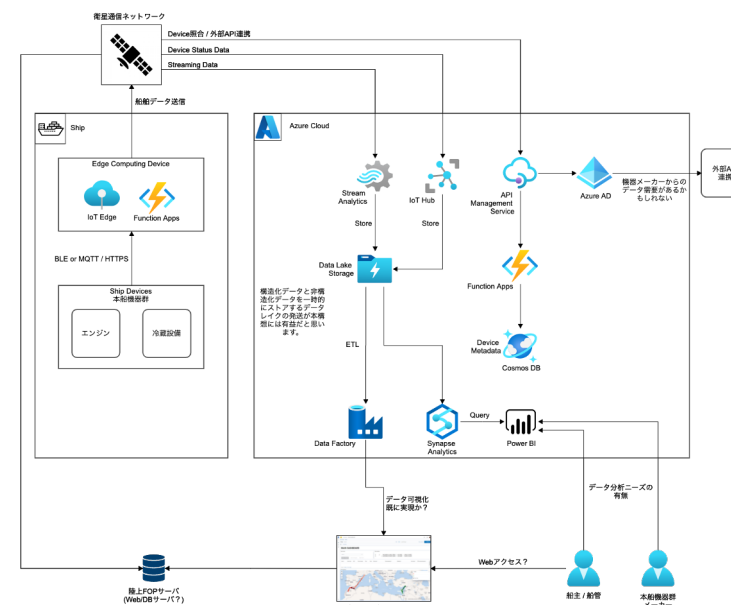
DAY2	AM	<ul style="list-style-type: none"> ・（As-Is）課題のおさらい ・（To-Be）理想の洗い出し→ディスカッション
	PM	<ul style="list-style-type: none"> ・（To-Be）理想のまとめ ・DAY2まとめ（理想の共有）

2-3dayで弊社からアーキテクチャ案を提示。
（DAY3までの宿題） アーキテクチャ案を一通り見て、理想との乖離がないか、DAY3で聞くことを考える

1 week

DAY3	AM	<ul style="list-style-type: none"> ・（To-Be）理想のおさらい ・アーキテクチャー案のご説明 ・AWSスペシャリストとのフルディスカッション ・3DAYS まとめ（全体考察） & 感想報告
	PM	

アウトプット



3DAYS

テーマB：とにかくアーキテクチャを検討。そして業務フィットや理想をマージ。

目標：これからクラウドへの展開をスタートするという決意が生まれること

ゴール：アーキテクチャ案の完成

DAY1	AM	<ul style="list-style-type: none"> ・初期ファシリテーション（自己紹介、目的・ゴール・過ごし方などの説明） ・使用ツールの説明、トレーニング（Cacooなど） ・状況ヒアリング（貴社からの情報Input）
	PM	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドに単純移行（リフト）した構成図をフォローを受けながら作成 ・DAY1まとめ（リフト時の構成図考察）

（DAY2までの宿題）作成した構成図の理解を深め、問題点について考える

1 week

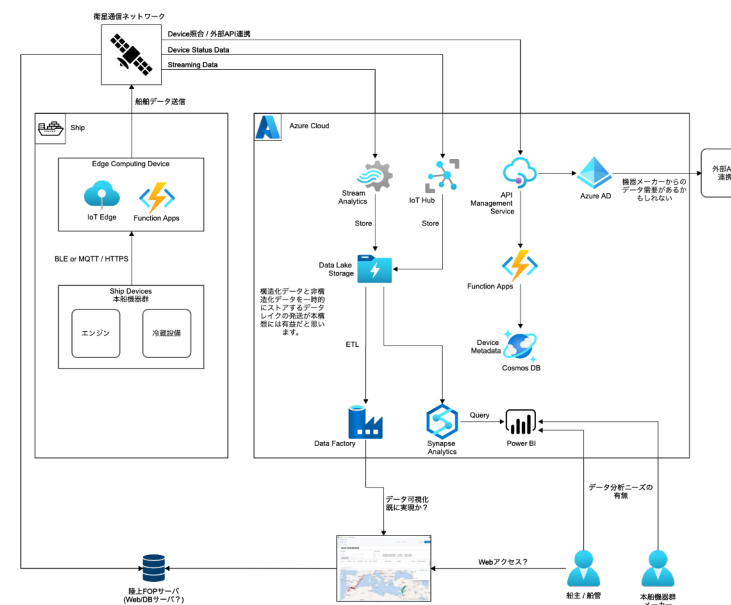
DAY2	AM	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウド活用の構成に移行（シフト）した構成について、テーマディスカッション（AWS推奨パターン）をしながら構成図を作成①
	PM	<ul style="list-style-type: none"> ・午前中の続き ・DAY2まとめ（シフト時の構成図考察）

（DAY3までの宿題）作成した構成図の理解を深め、業務にフィットするか、理想的なのかを

1 week

DAY3	AM	<ul style="list-style-type: none"> ・より現実に即した構成についてテーマディスカッション ・3DAYS まとめ（全体考察） & 感想報告
	PM	

アウトプット



3DAYS

3DAYSテーマ：クラウド活用の課題を洗い出し、理想を見つける。

目標：※DAY1にて決定

ゴール：※DAY1にて決定

DAY1	AM	<ul style="list-style-type: none">・初期ファシリテーション（自己紹介、目的・ゴール・過ごし方などの説明）・使用ツールの説明、トレーニング（Cacooなど）・状況ヒアリング（貴社からの情報Input）
	PM	<ul style="list-style-type: none">・（As-Is）課題の洗い出し→ディスカッション・DAY1まとめ（DAY2,3の方向&進め方、目標&ゴール設定）



（DAY2までの宿題） DAY1にて設定

1 week

DAY2	AM	<ul style="list-style-type: none">・DAY1で設定した目標、ゴールにむけディスカッション・（To-Be）理想のまとめ・DAY2まとめ（理想の共有）
	PM	



（DAY3までの宿題） DAY2にて設定

1 week

DAY3	AM	<ul style="list-style-type: none">・（To-Be）理想のおさらい・DAY1で設定した目標、ゴールにむけディスカッション・3DAYS まとめ（全体考察） & 感想報告
	PM	

アウトプット

DAY1にて設定される目標とゴール
DAY2、DAY3にて実施するディスカッションにより決定

SERVICES

デジタル戦略アセスメント

3WEEKS

3WEEKSでは、ある程度課題が明確になっている事を前提とし、課題への解決方法をPoCを実施し、実態に近い状態で仮説、検証を実施します。

具体的な方法としては下記の通りです。

1. 現状の課題を元にPoC実施
2. PoCの結果から、より明確な課題抽出
3. 課題に対する解決方法、To Beの検討

SERVICES

デジタル戦略アセスメント

3 WEEKS

1

課題内容から方向性検討

- 現状システムのワークロード・システム構成のヒアリングをし、お客様にどういったシステムか（用途、構成）を説明していただきます。
- 課題をリスト化し、課題に対するアクションプラン作成

2

プロトタイプ作成、評価

- 実環境に近いものをプロトタイプとして作成し、検証します
 - プロトタイプ作成
 - 検証、評価
 - 結果報告書作成

3

PJ化検討

- 2で作成した報告書内容から、次のアクションプラン検討
- アクションプラン作成

SERVICES

デジタル戦略アセスメント

3WEEKS

(クライアント様の) 主なメリット

- 業務時間を使って様々な議論を行うことができる。
- 外部の視点が注入されることで気づき生まれる。
- 当社技術スペシャリストに質問できる。アドバイスが貰える。
- セカンドオピニオンの使い方ができる。
 - 外部コンサルに依頼して戦略を作ってもらったけど内容に不安だと言う場合に。
- 戦略や解決策まで見つかる可能性がある。
 - その場合、予算の確保から具体的アクションプランの作成・実行が可能に。

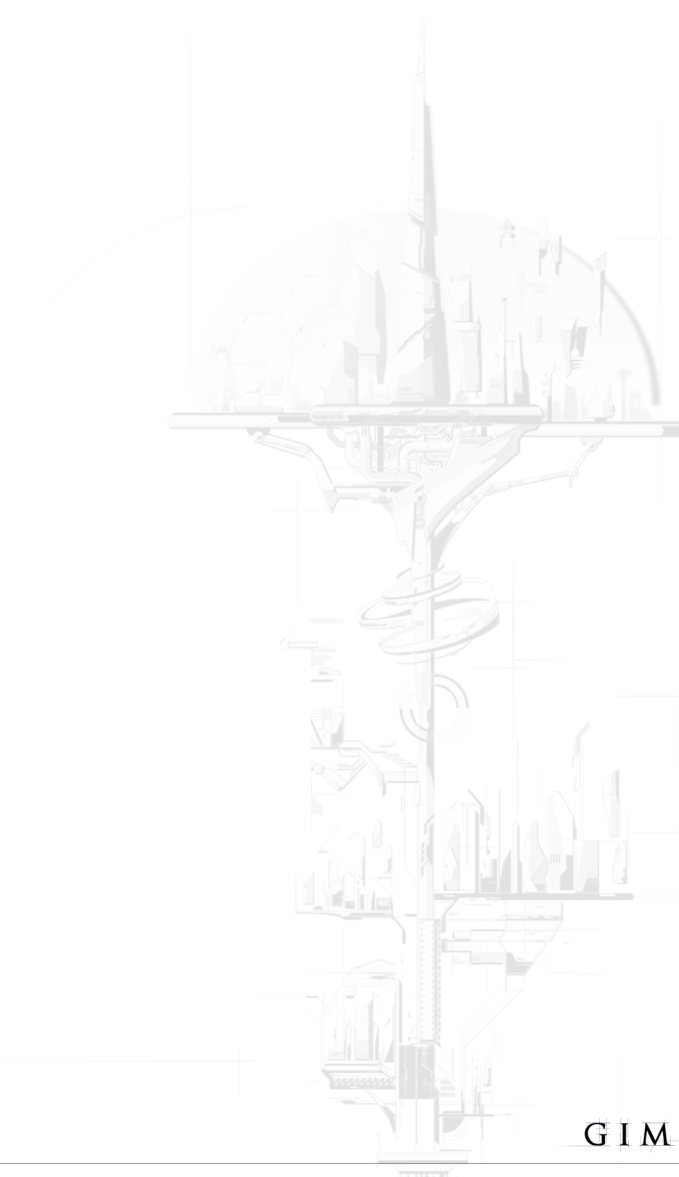
SERVICES

デジタル戦略アセスメント

3WEEKS

主なアウトプット例

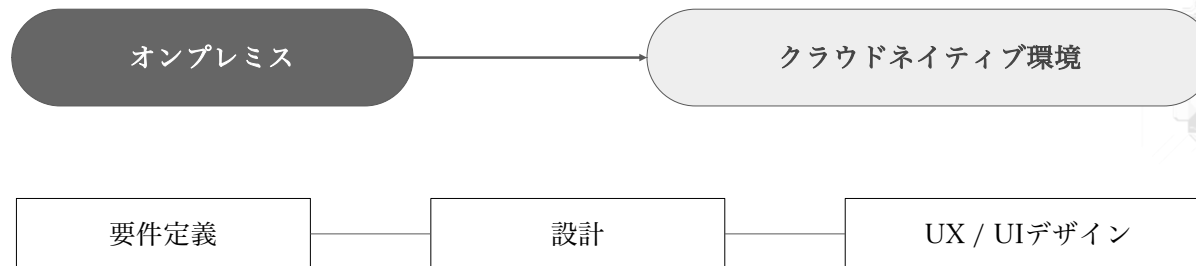
- 作成したプロトタイプ
- システム構成図
- アクションプラン
- 報告書



SERVICES

クラウドアーキテクチャデザイン

新しいサービスやプロダクトも含めた最適な構成、アーキテクチャを顧客環境で実現するために、
調査・PoC・試作・デモプロトタイプ作成・クラウドセキュリティ対策・運用組織育成支援など
製造工程以外を中心にコンサルティングを提供します。



SERVICES

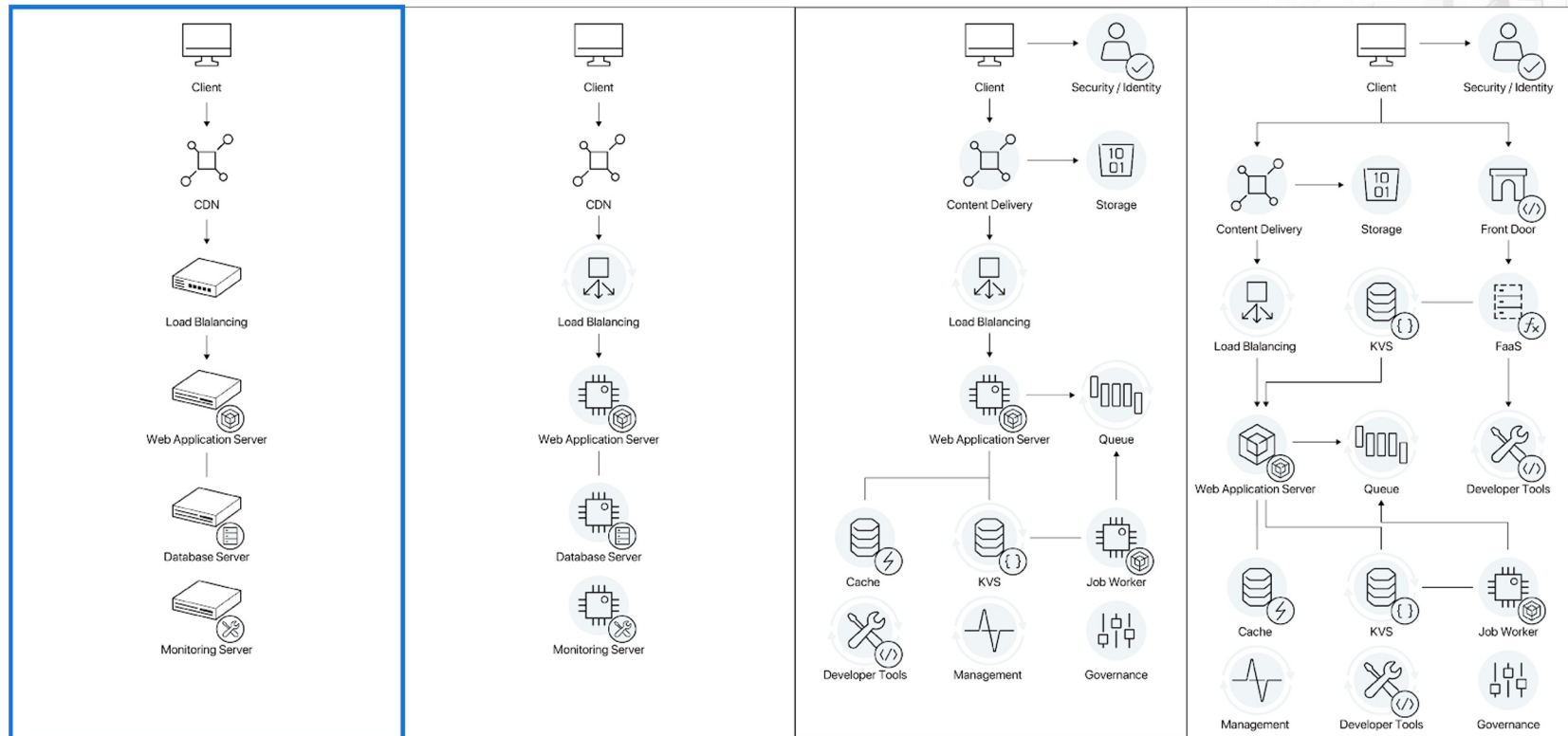
クラウドアーキテクチャデザイン

オンプレミス

単純リフト環境

クラウドシフト環境

クラウドネイティブ環境



SERVICES

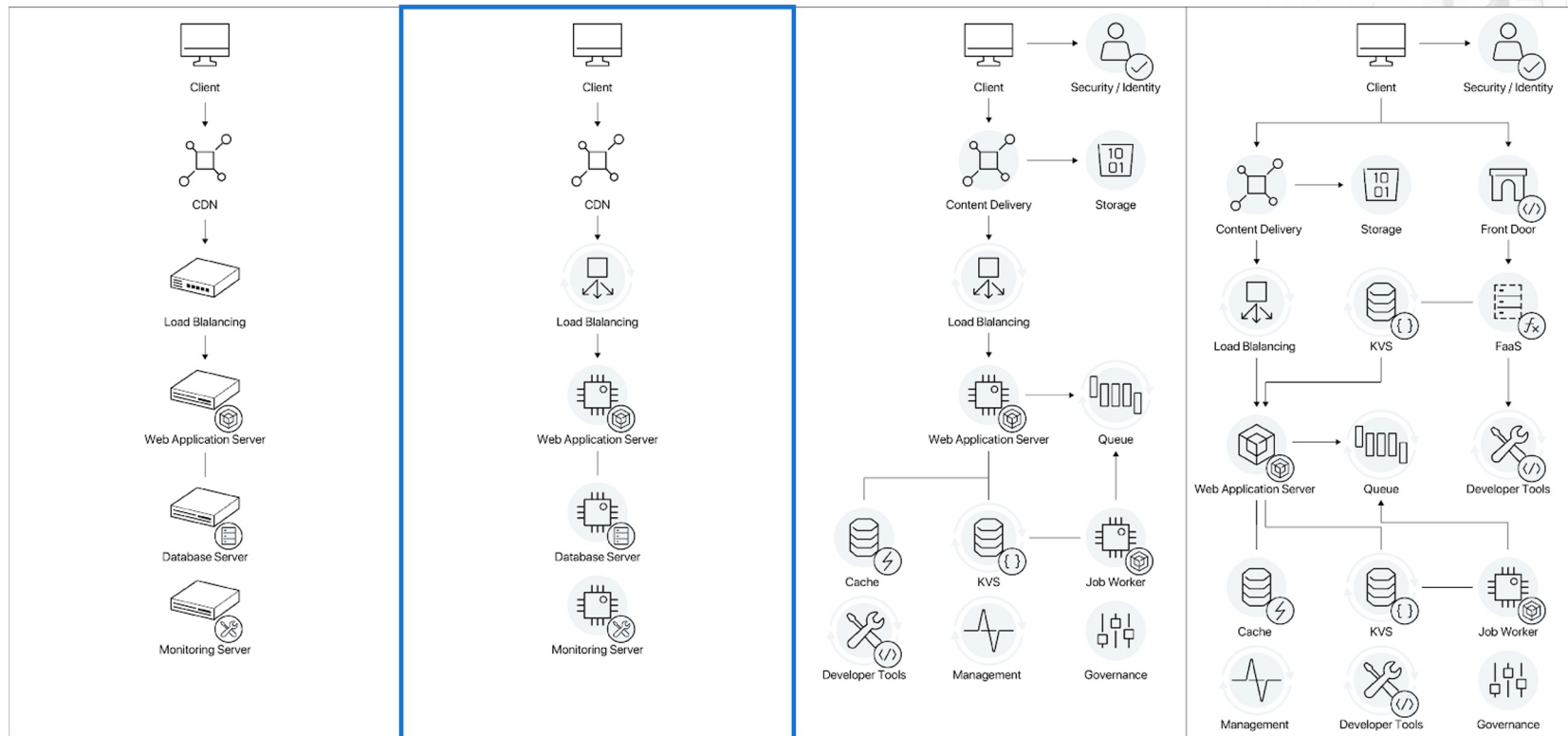
クラウドアーキテクチャデザイン

オンプレミス

単純リフト環境

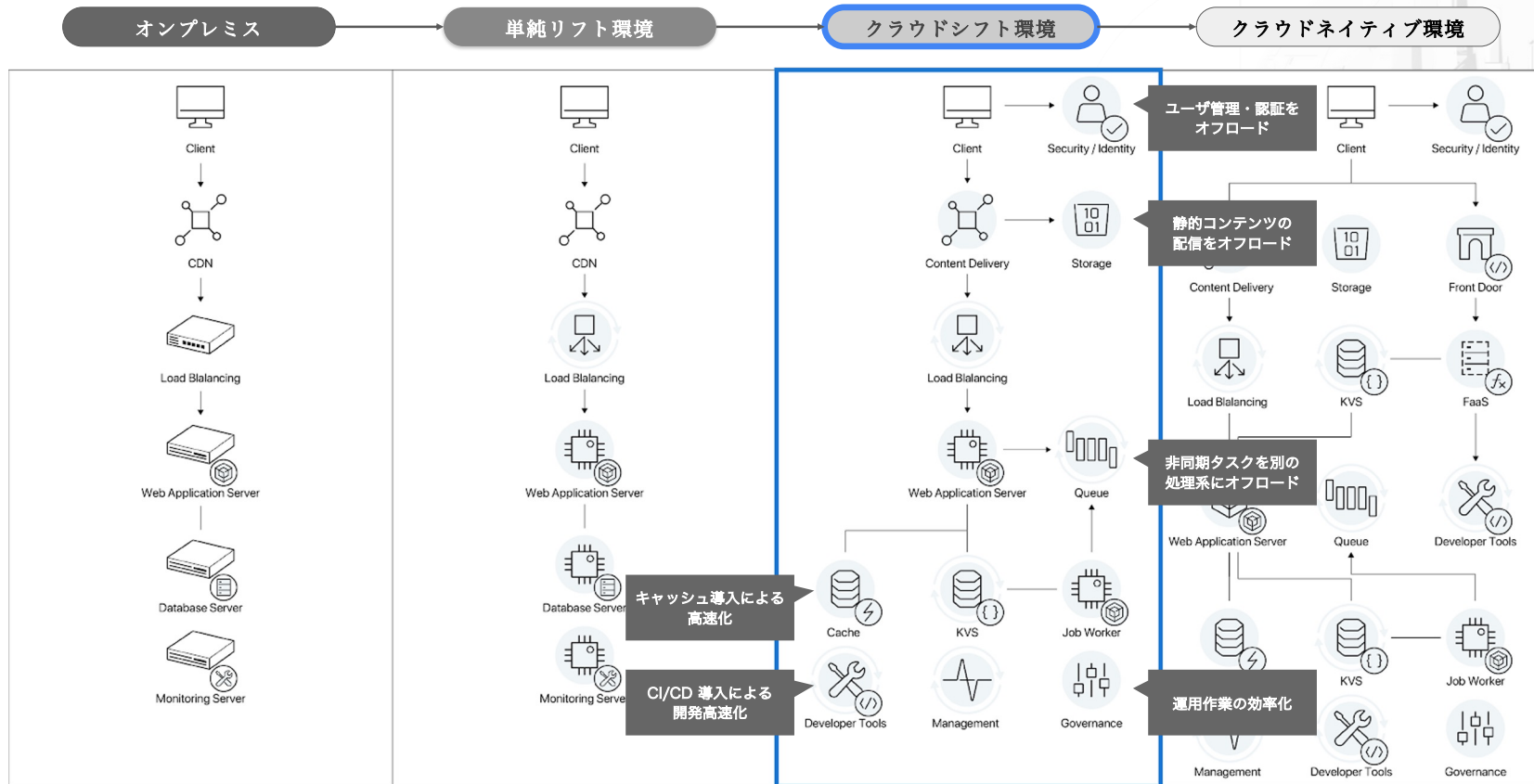
クラウドシフト環境

クラウドネイティブ環境



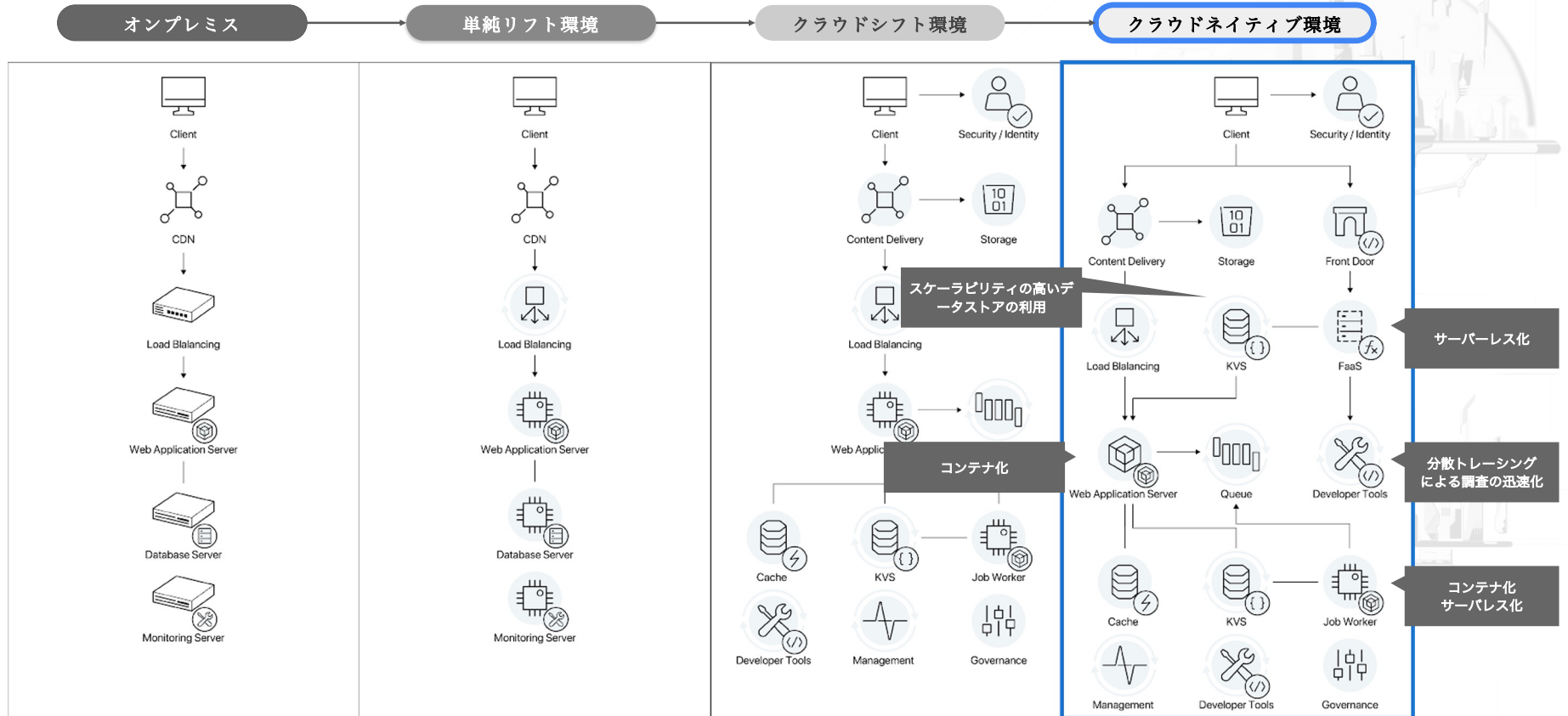
SERVICES

クラウドアーキテクチャデザイン



SERVICES

クラウドアーキテクチャデザイン



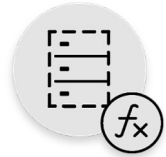
SERVICES

クラウドアーキテクチャデザイン

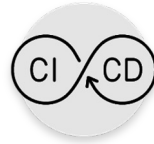
システムの開発を効率化し、継続的な改善を支える、柔軟性の高い環境を実現



IaC



Serverless & Containers



CI / CD



Observability & Analysis



Well-Architected

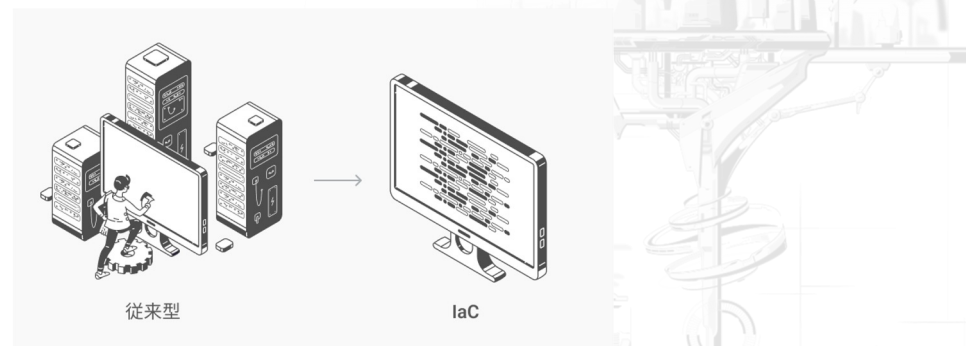
SERVICES

クラウドアーキテクチャデザイン



Infrastructure as Code (IaC)

クラウド活用を積極的に進めると利用サービスや設定項目が複雑化し、環境毎の差異が想定外のインシデントを生むケースがあります。GIMLEはコードによる構成管理で問題を解決できます。



IaCの価値

- レビューのしやすさ、設定の明確化によるインフラリソース設定の品質の均一化と底上げ
- インフラ構築の再現性の確保
- インフラ規模に関わらず構築速度を向上できる

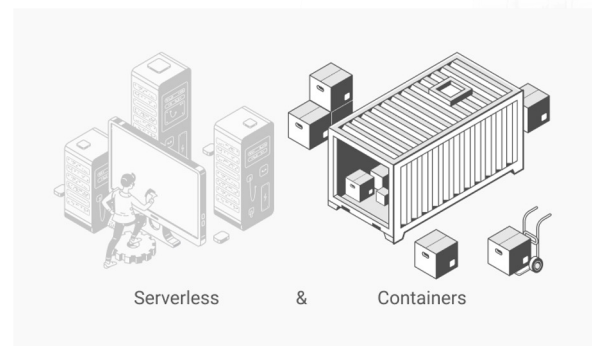
SERVICES

クラウドアーキテクチャデザイン



Serverless & Containers

マネージドサービスの積極的な活用でTCOを削減、障害に強いシステムを構成。CDNでの高速配信、コンテナのスピードと不変性を応用し、スケールアップとコスト効率を両立しました。



Serverless & Containersの価値

- OSのセキュリティアップデート作業の対応が必要なくなる
- 仮想インスタンスに問題が発生した場合の復旧作業のボリュームが少なくなる

SERVICES

クラウドアーキテクチャデザイン



CI / CD

AWS Code シリーズ、Azure DevOps を活用した CI/CD 環境を構築。開発サイクルを高速化し、リリースフローを安定させることで、十分な品質のシステムを提供する環境を整えました。



CI / CDの価値

- ビルド、テスト及びデプロイが自動化され、人為的なミス軽減及びリソース(コスト)軽減が実現できる
- 作業への属人化の防止

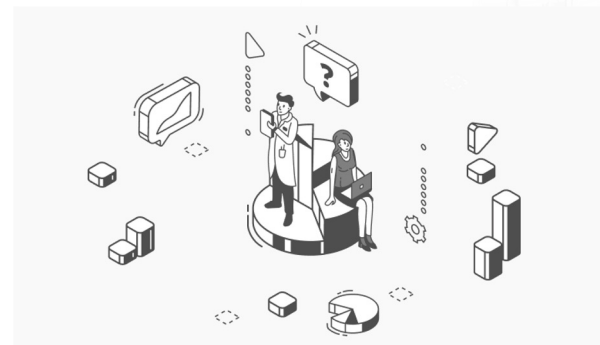
SERVICES

クラウドアーキテクチャデザイン



Observability & Analysis

システムの複雑化により難航していたエラー時の状況把握。
Amazon CloudWatchで異常を特定しつつ、WebAPI に
AWS X-Ray SDKを組み込み、視覚的な状況把握を可能に
しました。



Observability & Analysisの価値

- 問題の検出、調査が可能となり、システムの改善が行える
- ビックデータの分析がフルマネージドで行え、cloudサービスの連携で可視化も可能

SERVICES

クラウドアーキテクチャデザイン



Well-Architected

クラウドアーキテクトがお客様と共に、システムの安全性・性能・障害耐性・効率性について一環したアプローチで評価し、改善点を見つけ出す。

システムの運用効率・セキュリティ・信頼性・パフォーマンス効率・コスト効率を高め、クラウドに最適化させるために役立つ。



Well-Architectedの価値

- いくつものクラウドサービスを設計・構築してきた専門家による支援の元、体系的に整備されたフレームワークに基づいて、クラウドサービスを利用するシステムの設計や、サービスを開発・運用する組織の課題が分析できる
- 分析結果とともに提示される具体的な改善策に基づいて、リスクの高い要素から優先順位を決めて対処することができる

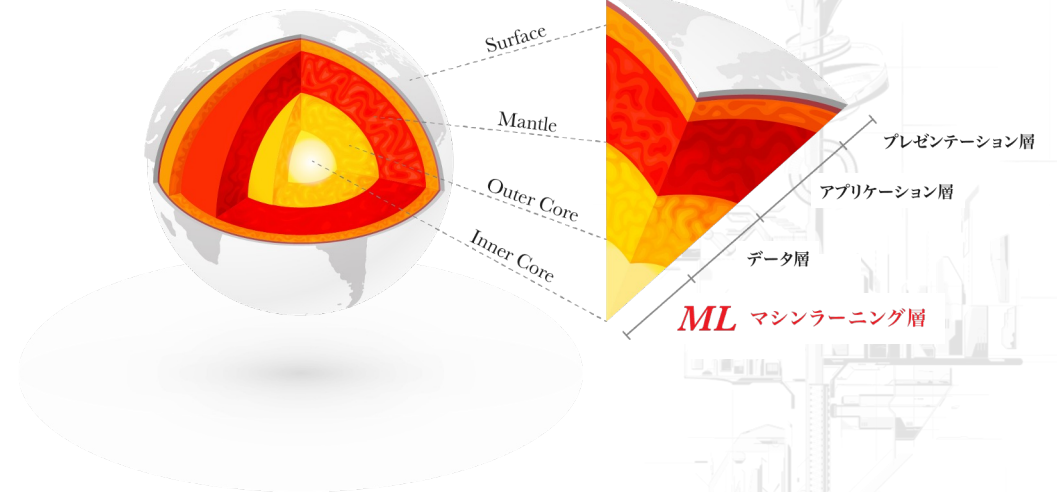
SERVICES

MLOps

機械学習基盤

AS-IS

TO-BE



SERVICES

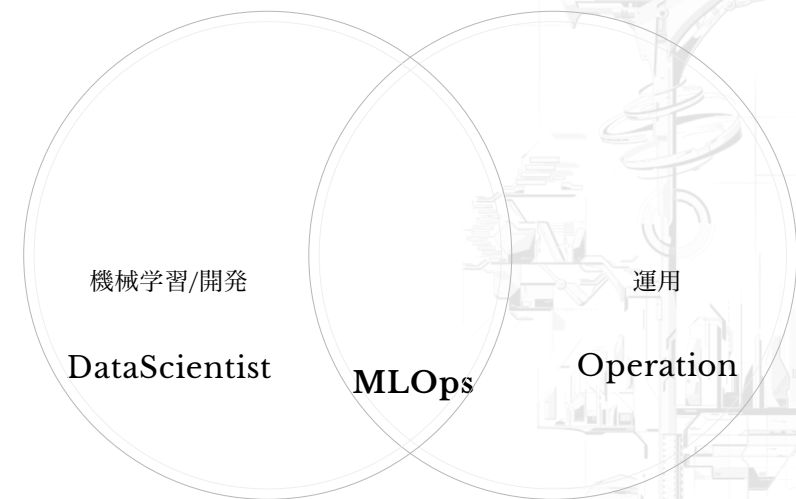
MLOps

機械学習基盤サービス概要

Machine Learning Operations

学習モデルから運用までのライフサイクルを円滑に進めるための管理体制（機械学習基盤）を築くこと、またその概念全体を指します。

より付加価値の高いソリューションを提供するために、データサイエンティストの視点とITオペレーションの視点を融合しモデルの構築を効率的に実現するのみならず、難易度が高くなり続ける高度なモデルの運用実現を目指します。



SERVICES

MLOps

サービス提供範囲

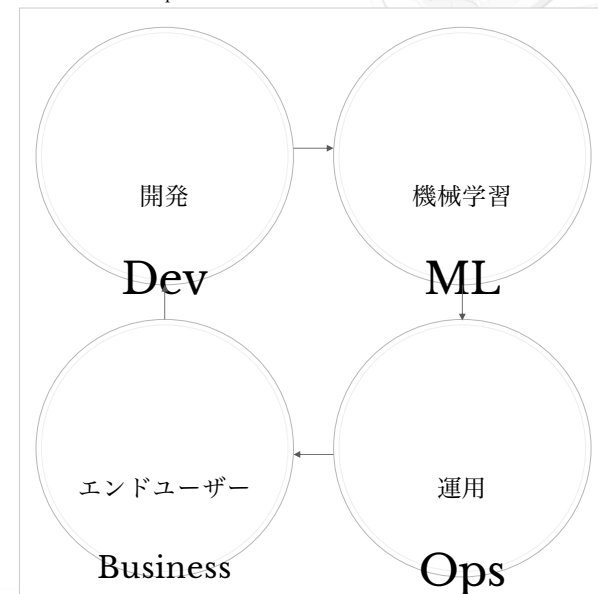
フェンリルではクラウドサービスを用いたMLOps 文化を根付かせることに重点を置き、データ収集基盤構築や、MLOps 基盤構築部分を提供します。

主な機能提供

- 01 学習モデルのライフサイクル管理
- 02 学習モデルデプロイの簡素化
- 03 学習モデルの挙動・パフォーマンス検証
- 04 機械学習の監視

※MLOps 文化を根付かせることに重点を置くため、データ分析や学習モデル作成は担当いたしません。

フェンリルMLOpsサービス イメージ



統一的なMLOpsによる管理/統制

SERVICES

MLOps

機械学習ワークロード

Business Problem
ビジネスモデルの策定



Business Stakeholders

ML problem feaming
ML問題のフレーム化



SysOps

プロビジョニング環境
Provision environment

データ拡張
Data Augmentation



Data Engineers

Data Collection
データ収集

Data Integration
データ統合

Data Preparation & Cleaning
データ準備/クリーニング

Data Visualization & Analysis
データの可視化/分析

特徴調整
Feature Augmentation



Researchers / Scientists

Feature Engineering
特徴量エンジニアリング

Model Training & Parameter Tuning
モデル開発

Model Evaluation
モデルの評価

No

Are Business Goals met?

Yes

Re-training
傾向変化に応じて再学習

Monitoring & Debugging
監視

Model Deployment
デプロイ

Predictions



Software/DevOps Engineers

SERVICES

MLOps

MLOpsを実現する体制

MLOpsを実現するチームは一般的に6つの役割が必要とされています。フェンリルではMLOps文化醸成に注力するため、提供サービス範囲をデータエンジニア、MLOpsエンジニア、MLエンジニア、セキュリティーコンプライアンス管理者を対象としています。

フェンリルMLOps提供範囲

**Data Engineer**

- ・データパイプラインの構築
- ・データの管理

**MLOps Engineer**

- ・開発/運用環境の設計

**Data Scientist**

- ・データの分析/モデルの開発

**ML Engineer**

- ・データの本番化、デプロイ

**Security/Compliance Administrator**

- ・システムの安全管理
- ・監視対応

**System Administrator**

- ・必要なITリソースの用意
- ・インフラのテンプレート化
- ・システム監視

SERVICES

MLOps

提供サービス

作業環境基盤構築

内容

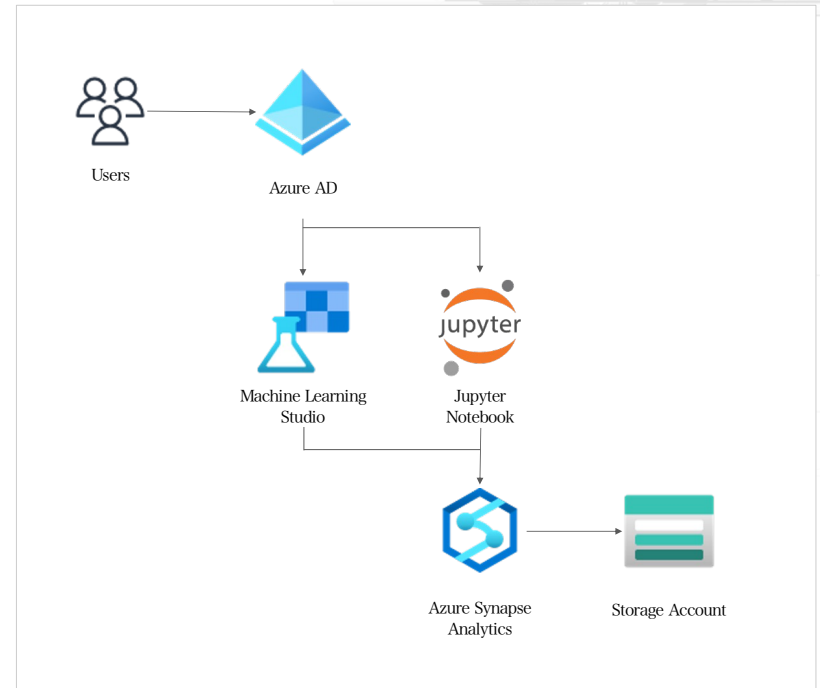
データサイエンティストがクラウド上のデータを利用して機械学習を実施できる環境を構築

- Machine Learning Studio や Jupyter Notebook を利用者に払い出して利用
- データを Storage Account に保管、Azure Synapse Analytics を使って呼出し
- 利用者が利用できるデータは Azure AD RBACで制御

効果

- 個々に割り当てるローカル端末の廃止
- クラウド上に蓄積されたデータの活用

作業環境基盤構築 内容イメージ



SERVICES

MLOps

提供サービス

CT 基盤構築

※ Continuous Training

内容

- 学習データ加工、学習モデル作成、本番環境デプロイまでのパイプラインを構築
- 構築方法と利用方法についてレクチャー

効果

- 自動化による作業効率化
- 構築方法についてレクチャーし、各自がある程度パイプライン構築可能な状態になる

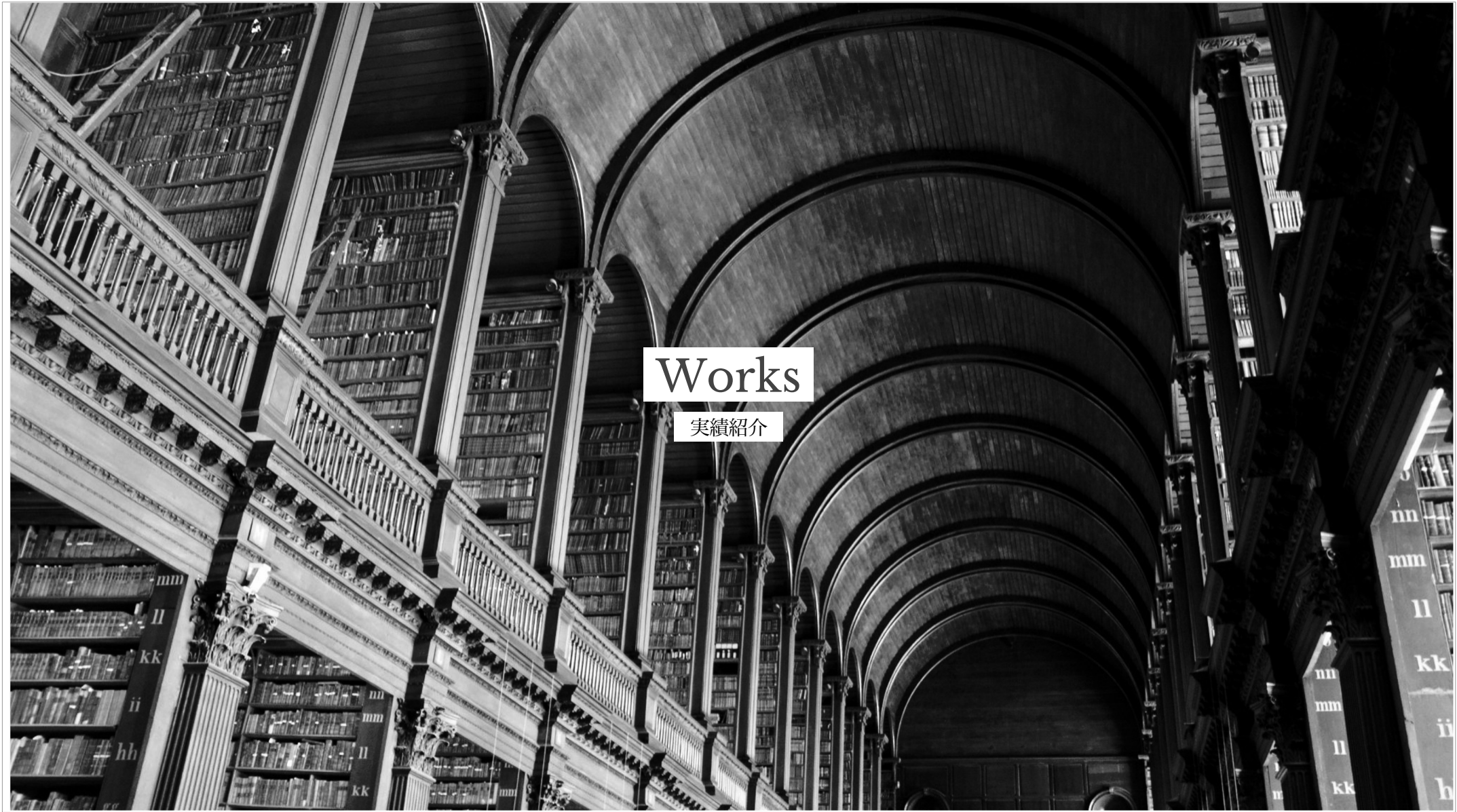
ハンズオン

内容

- Machine Learning Studio や Jupyter Notebook を使った機械学習ハンズオンを実施
- データサイエンティスト・インフラエンジニア・データ管理者の視点で、それぞれが担う作業を説明

効果

- Machine Learning の使い方を知り、クラウドを使った機械学習ができるようになる
- データサイエンティスト・インフラエンジニア・データ管理者に作業を分割し、業務を効率よく実施できるようになる



Works

実績紹介

mm
ll
kk
ii
hh

mm
mm
ll
kk

nn
mm
ll
kk
nn
mm
ll
kk
h

WORKS

実績紹介

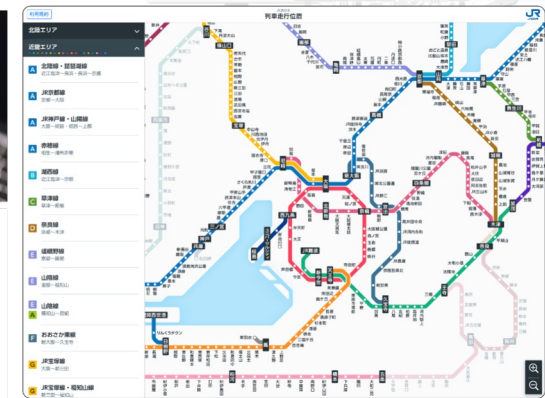
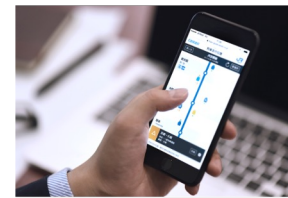
JR西日本列車走行位置



「自分が乗る予定の電車が今、どこを走っているかを知りたい」など、顧客の移動に関する満足度向上のため2017年よりサービスの提供を開始しました。

AWS上にプラットフォームを構築し、災害時などの大量アクセスへの対応を実現。月間平均400万PVを記録し、ダイヤ乱れ時には特に活用されています。

フェンリルでは、システムに求められるスケーラビリティと可用性を達成するアーキテクチャ設計を行いました。



WORKS

実績紹介

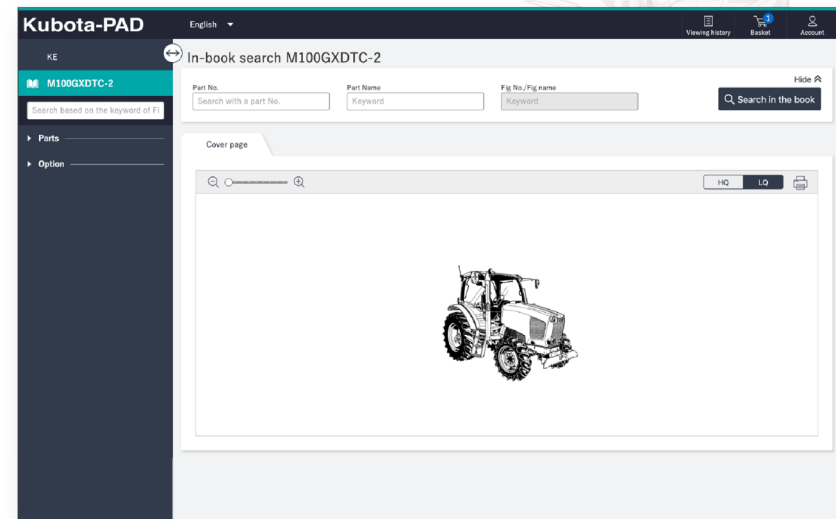
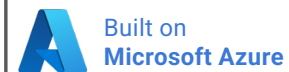
クボタ サービスパーツカタログ

トラクターやコンバインなどのサービスパーツを特定するシステム。

基幹システムと連携してサービスパーツの在庫情報や発注の連携ができ、グローバルに社内外の様々なユーザーに利用されています。

グローバルで利用されているシステムであることから、使い勝手の良い操作性／高速レスポンス／マルチデバイス対応の3つが重要な要件となっています。

SPA（Single Page Application）を採用し、画面遷移の回数削減（約30%削減）、画面の表示速度改善（約40%向上）を実現しております。



WORKS

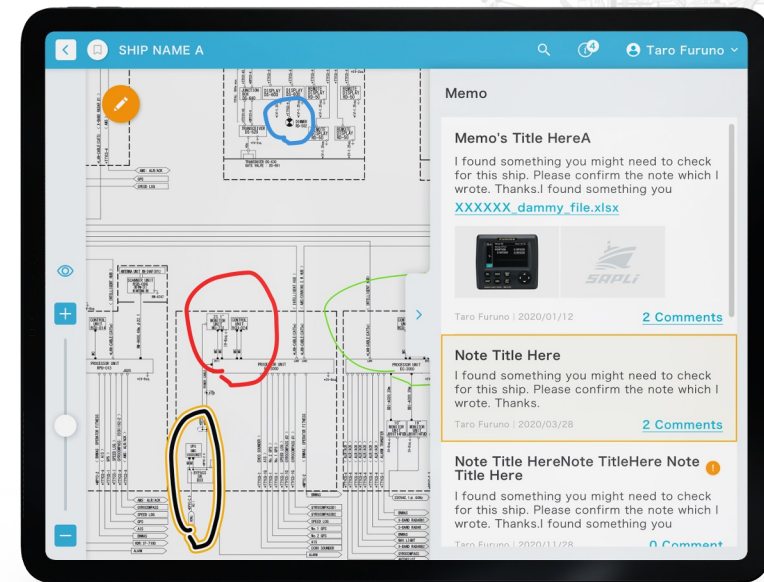
実績紹介

古野電気株式会社 SAPLi

SAPLiは船舶用機器の修理や保守メンテナンスを行うサービス員の業務を支援するウェブアプリケーションです。サービスに関わるデータ（船情報、図面、過去のメンテナンス履歴等）を、素早く参照/取得できるようにすることで調査時間を短縮し、業務の効率化を実現します。

インフラ部分ではAWSのマネージドサービスを積極的に活用。サーバーレス環境の構築により運用にかかる手間を抑え、障害に強いシステムとなるよう構成しました。

また、アプリケーション開発では、AWS Codeシリーズを活用したCI/CD環境を構築することで、開発サイクルを高速化し、リリースフローを安定させることができました。これにより、開発したアプリケーションに対する素早いフィードバックが得られ、高速な開発ながら十分な品質のシステムを提供することができました。



WORKS

実績紹介

三浦工業株式会社 オンラインメンテナンス®

オンラインメンテナンス®は、顧客の機器とメンテナンス拠点や本社オンラインセンターを結び24時間365日のバックアップを行うアプリケーションです。月間の蒸発量や燃料使用量、効率等の診断データを毎月送付するほか、万が一トラブルがあった場合にはフィールドエンジニアに自動通報します。

オンラインメンテナンス®では、開発プロセスにDockerコンテナと呼ばれるコンテナ型仮想化技術を活用することで、開発環境と本番環境の差異を最小化し、開発 / 運用コストを低減させました。

また、ユーザー体験の向上のためにPWA対応にしており、ウェブアプリでありながら、スムーズな画面遷移やキャッシュによる表示速度の高速化、非同期でのデータ処理の効率化を可能としました。その他、三浦工業様で運用されている機器との通信にWebSocket仕様を採用し、機器の状態をリアルタイムに確認できる仕組みも実現しております。



Appendix



Appendix



弊社に在籍するエンジニアおよびデザイナーは、多数の著作物を手掛けております。



Appendix



WEB+DB Press No.113

20191023

AWSトラブル解決

【接続エラー、性能低下、権限エラー、クラウド障害】
原因調査・対応・予防のノウハウ

AWS(Amazon Web Services)特有のよくあるトラブルについて、原因調査方法と解決策を紹介。「つながらない」トラブルとしては、権限設定、ネットワーク設定に起因する事例を取り上げました。

運用上のトラブルとしては、アプリケーションにエラーが発生した場合、パフォーマンスが悪い場合の対処法を紹介。そして最後にAWS側の障害や変更起因するトラブルをピックアップ。実際のトラブルは多種多様ですが、トラブルシューティングの流れは変わりません。本特集の内容は多くのシーンで活用できるはずです。



GIMLE

最高の体験のために

